

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾 LC レポート vol.10

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは2017年1月21日（土）、第10回目の講義を開催いたしました。

2016年度最終回となる今回は、ジャーナリストの岸井成格さん、コンサルタントの堀紘一さんにご講義いただきました。

1月21日（土）

13:00～14:30 講義第11回

講師：岸井成格氏（TBS コメンテーター、毎日新聞特別編集委員）

テーマ：時事解説「歴史と暦から読み解く 2017年日本の政治と経済」

14:40～16:10 講義第12回【田原総一郎担当講義】

講師：堀紘一氏（ドリームインキュベータ代表取締役会長）

テーマ：仕事で一皮むけた瞬間「たくさんの失敗があって、ビジネスマンとして成功した」

16:20～17:00 修了式

17:00～19:00 修了パーティ

【講義第11回】

講師：岸井成格氏

テーマ：「歴史と暦から読み解く 2017年日本の政治と経済」

2017年は激動の1年になる。ちょうど今日(現地20日)、アメリカではトランプ氏が大統領に就任した。歴代大統領のスピーチと違い、民主主義や自由などの価値観を強調せず、グローバルな枠組みよりもとにかく「アメリカファースト」、アメリカの国益を最優先するという姿勢を示している。今後さらに、保護主義、ポピュリズム、ナショナリズムの傾向が強くなる。

トランプ氏の当選をメディアは予測できなかった。メディアの論調と民意の実態との間にギャップが生まれ、メディアへの信頼が薄れてきている。暴走する政治を抑制することがメディア本来の役割だが、現在メディアが機能しなくなっている。

日本への影響も心配だ。トランプ大統領は、なんでもディール（取引）で考えるようだ。そうすると取引外交、アメリカの国益を最優先した外交になる可能性が大きい。レーガン大統領のときのように、日米貿易において日本企業の輸出自主規制を求められることを危惧している。

アメリカがグローバリズムから離脱したように、EUではイギリスが同じことをしている。ヨーロッパは分裂し、スコットランドなどで独立運動が加速するだろう。

【受講生のレポートより】

トランプ大統領の就任演説直後ということもあり、メディア関係者の観点からいろいろと背景を含めて興味深い話を聞くことが出来た。

トランプとのメディアとの戦争、「強いアメリカ」を目指したレーガン元大統領への強い憧れなど、（歴史と言う意味で一般常識なのかもしれませんが）なかなか知らなかったことまで聞けて面白かった。

=====

トランプ大統領の当選に関して多くのメディアが間違った（思い込みがあった）というお話があったが、WebやSNSといった情報発信の手段が多様化した今日では、TVや新聞といった大手メディアを多くの人が信頼し、その情報を信じているという前提が大きく崩れ、これまで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなっている例ではないかと思った。つまり、モノや情報があふれかえっている現代では、民衆は様々な選択肢から選ぶことが可能であり、これまで皆が正しいと言うからなんとなく同じ選択をしてきた人々が、自身の考えに基づき選択をするようになってきているということではないだろうか。

少し脱線するが、そういったマイノリティーやこれまで光が当たらなかった人々の声をくみ取り、その部分に光を当て支援するという点では、実はオバマ大統領もトランプ大統領も変わらないのではないと思う。

このことを私たち企業社会に当てはめて考えると、例えばダイバーシティ経営はオバマ大統領時代の民衆の意思が反映された結果、生み出された概念で

あるといえる。そうすると、私たち企業人はトランプ大統領を後押しした格差社会へ不満を持つ民衆の意思が反映された結果、企業社会にどのような変革をもたらす概念が生み出されるかを考えなくてはならないと思う。

現在、国・多くの企業で推進されている働き方改革は長時間労働の改善に焦点が当たっているが、格差社会に対しての不満解消という点において長時間労働の改善は少し的外しているようにも感じる。

働き方改革のもう一つのテーマであり、コストコがとっているような同一労働・同一賃金といった、能力以外で賃金格差が起こらない就労環境の提供や、フリーランス・副業の推進など自身の能力を発揮し相応の対価を得られる仕組みといった、自己実現・競争意欲の発揮につながるような多数の選択肢を用意することが、真の働き方改革として企業側に求められていることなのかもしれない。

=====

トランプ政権とメディアの対立を見ていると、メディアの中立性というものを捉えるいい機会であると感じている。ジャーナリズムという観点から言えば、そのジャーナリズムはポピュリズムや企業とも一定の距離が必要なはずだが、広告や購読料で収入を得ている新聞、テレビのメディアがどれだけ中立性を持って活動を続けていくのは、構造的には難しい問題を内包していると感じた。

=====

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉があるが、改めて今を知るには歴史を学ぶことが必要だと感じた。過去からの流れを知っているのと知らないのでは大違いであり、知ることによって気づくことも多い。仕事に直接関わらない知識でも、ビジネスにおいては会話に繋がる共通言語となる事が多い為、知識を身につける事が重要だと感じた。

講義第 12 回【田原総一郎担当講義】

講師：堀紘一氏（ドリームインキュベータ代表取締役会長）

テーマ：仕事で一皮むけた瞬間「たくさんの失敗があって、ビジネスマンとして成功した」

ドリームインキュベータでは、日本の既存の雇用制度を壊したいと思っている。日本の雇用制度は(1)「年々序列」 個人の成績ではなく、入社年度で昇級昇格し、上下関係が生まれる。いわゆる「先輩」も、英語ではその単語が存在しない。あえていえば「シニア」だが、senior といえば「かなりできる人」の意味もある。したがって、能力もないのに「先輩」だから昇格する制度はありえない。(2)「処女採用」 新卒採用のこと。中途採用は出世できないという固定観念がある。しかしこれは、少しずつ崩れてきている。(3)「終身雇用」 どちらかというと、この制度にしがみつこうとしているのが問題。

私の場合、大学を卒業して最初に就職したのは、読売新聞だった。縁あって三菱商事に転職をし、その在職中にハーバード大学ビジネススクールへ留学させてもらった。帰国してその知識と戦略が使えるかと考えたら、かなり先の話になる。そんなバカバカしいことがあるか、と、二度目の転職がボストン・コンサルティング・グループだった。

そして55歳のとき、世界一周の旅に出た。その途中、次にチャレンジすることが人生で最後のチャレンジになることを感じて起業した。ドリームインキュベータだ。

会社設立から16年たった。社員は徐々に育ってきている。5年後10年後の未来を考えて、長期的な視点で利益を追求する楽しさを感じている。現在おもに行っている事業は、アメリカのシリコンバレーのベンチャー企業への投資。インドのアニメベンチャーへの投資だ。

【受講生のレポートより】

転職社会と思っていたアメリカでも3回以上転職すると問題があると見られ、2回3回が普通という事を知った。ただし、日本企業では未だに転職ありきの文化には、まだなっていないと感じる。そこには、日本の文化や日本人の価値観などがあると考えられる。日本人は短い期間での転職を忍耐力が低く、飽きっぽい性格と考える。しかし、欧米では、むしろ積極的にチャレンジする行動力がある人と考え、転職回数が多いのはキャリアアップをしっかりと考えた結果と捉える。

=====

堀さんは若い時から目的意識を持って自己投資をし、必ず訪れるチャンスを見逃さないように必要な感覚を研ぎ澄まし、確実にステップアップされたのであ

ろうと感じました。日本型年功序列の会社システムは崩れつつありそこに安住していると将来は無く、日ごろから自己研鑽が必要である。

講義の後に興味があり堀さんの著書を何冊か読みました。(遅くてすみません。) 順風満帆にステップアップされた印象を持っていましたが、DI 創業当時の苦労話も読むにつけ、相当な苦労をし、そのために努力・勉強をして難局を乗り越ってこられた凄みも感じました。

「リーダーシップは、先天的なものでは無く、常日頃から心がけで身に付くものだ！」という堀さんの言葉も読むことができ、非常に勇気付けられたとともに、継続的な勉強・自分磨きが一層必要であると再認識しました。

【大隈塾から得られたこと、気づき、感想】

これまでいろいろな講師の方のビジネス・生き方の話、健康の話、田植え・稲刈りを通しての自然との話など、多岐に亘って講義を受けることができた。もちろん皆さんすごい方だとは思いますが、合う・合わないもあるし、話を伺って共感できる部分・できない部分も当然あった。

ただ、自分が変わっていくために必要な部分のみを自ら取捨選択し、後は、多様な人との共生で生きている・ビジネスをしているというのを改めて肌身に感じることでいいのかなと思う。

また、横の連携が一番得られたことであると思う。

会社の中でちょっと（気分的に）停滞感も出てきてるメンバーだったかと思う。

このような想いがどこかにあったのもあるせいか、業界も職種も様々なメンバーであったが、普段出会うことのないメンバーと、このような刺激的な場に出会うことができたのが一番の財産だと思う。

今後も、このメンバーとの交流は続けていきたいと思う。

=====
各界を代表するリーダーの方たちの講義、多彩なワークショップはもちろんですが、同世代で他業種の方と共に勉強するということが非常に刺激になりました。

楽しいことももちろんありましたが、私個人としては各ワークショップで仲間たちの知識や意見を聞くことやディスカッションで仲間に対して非常な感心をしたことは当然ですが、それ以上に自分のレベルの低さを痛感してものすごく凹むことも多々ありました。そういったひとつひとつの刺激が大きな意識改革に繋がっていると思います。

各講師の方のお話も様々な分野で内容として同じ話はありませんでしたが、仕事に取り組む姿勢は共通していました。「とにかく色んなことに興味を持って、日々勉強しなければ人間は成長しない。そして目の前の仕事を一生懸命に取り組んだ結果としてリーダーとなった」というメッセージです。

仲間たちがこの時も懸命に仕事・勉強に取り組んでいることを励みに自分も一歩でも前にいけるように、みんなに負けないように頑張っていきたいです。

10 か月間、非常に短く感じました。さまざまな講師から気づきを得られたということに加え、レポート執筆作業を通じて考えに考え抜いたことが自身の成長に大きく寄与したと思います。普段、部下に考えろと言っているながら自分が考えることをさぼっていたことが非常に良くわかりました。なので、1 か月おきではありましたが、ほぼ 10 か月間大隈塾での気づきに対し毎日頭を使っていたので、短く感じたのだと思います。

=====

10 ヶ月間、様々な業界や立場、役職の方に講義頂き、多くの学びに繋がったと感じています。中でも、多くの方が共通してお話し頂いた言葉、「運が良い」「歴史を学ぶ」「心身ともに健康」という 3 つのキーワードは、心に刻み意識していこうと感じています。

大隈塾では多くの学びと気づきを得る場となり、私の中で多大な刺激となりました。自分の中では勉強しているつもりでしたが、今の知識量と幅ではダメだと感じて 1 月から MBA 取得に向けて勉強を始めました。今後も大隈塾のメンバーとの横の繋がりを大事にしつつ大志を抱いて仕事を行っていこうと思います。

=====

多くの方の講義を受けて非常に刺激的でしたし、楽しく、充実した研修でした。

各講師の方で、印象に残ったのは駒井さん、サントリービール水谷社長、枝野幸男衆議院議員の 3 名でした。お三方はご本人のキャリアに基づいた経験/エピソードをお話頂きましたが、その他の方はキャリアやバックグラウンドに割いた時間が多く、尻切れトンボとなったイメージがあります。塾生同士で会話した際も、駒井さんと水谷社長の講義評判が良かったです。

これを事務局に申し上げるのは失礼ですが、私としては大隈塾参加のモチベーションは仲間を作ることであったので、これは大いに達成できたと考えております。この関係を継続させ、周りに刺激を与えることができるビジネスパーソンになるべく励みます。

=====

単なるリーダーシップ論の講義だけでなく、田植えというフィールドワークやボディコンディショニングというプログラムがあったことで、知識や思考力だけではなく、感覚的な物事の捉え方や体のケアなど普段の生活ではあまり気

にしなかった点にもフォーカスを当てることができ、自分を見つめなおすきっかけになった。第2回、第6回のチームビルドの研修で行った鴨川自然王国では、初めて田植えを体験することができ、自然の中で心身体をリフレッシュすることができた。

=====

名古屋からの参加であったが、20名と少人数かつ、同世代の35～40歳のメンバーが中心で、1泊2日の泊りでの研修が多かったことで、グループ・ディスカッションだけでなく、他の塾生一人一人と夜遅くまで意見を交換できたので、スムーズに溶け込むことができた。加えて、積極的に発言をすることが大事、それに対して否定的な意見は言わないという雰囲気があったこともあり、私も自分の意見を積極的に話し、他の方々の意見を聞くことができ、大きな刺激を受けるとともに考えの幅を広げることができたと感じている。今後もこの大隈塾のネットワークというものを自分の財産としていきたい。

大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.10

2017年2月1日発行（通算31号）

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-19 アーバンヒルズ早稲田 207

tel:050-3558-7527 mail:ookuma_school@stonesoup.tokyo